

【参考資料】

国分寺市 [令和6年1月29日 厚生文教委員会資料]
議会事務局

厚生文教委員会調査資料目次

結果：継続審議

陳情第5－2号
健康保険証の存続を求める陳情

【議会事務局】

資料

- ・健康保険証の存続に関する意見及びマイナンバー保険証の導入に伴うトラブルに関するアンケート結果について

【経過】

2023年12月8日、国分寺市議会厚生文教委員会において協会が提出した健康保険証の存続を求める陳情が審議された。

審議の中で市議の一人から「国分寺市内の医療機関の中でどれくらい困っているのか医師会に聞くべきだ」という意見が出され、継続審議になった。議会事務局が国分寺市医師会に依頼し、同医師会がまとめたアンケートが、1月議会に提出された。

1月審議の結果は市議の一人から「近隣自治体の陳情に対する対応について調査してほしい」という意見が出され、また継続審議となった。

調 査 報 告 書

令和6年1月23日作成

担当部課名 議会事務局

課長氏名 清水 昭策

電 話 内線 580

番号	陳情第 5-2号	受理年月日	令和5年11月2日
件名 健康保険証の存続を求める陳情			
調査項目			
(1) 国分寺市内の医師で健康保険証の存続を求めている方がどのくらいいるのかについて			
(2) 国分寺市内の医療機関においてマイナンバー保険証にかかわり生じているトラブルの状況について			
(1) (2) について 一般社団法人国分寺市医師会に調査への協力を依頼し、会員へのアンケート調査を実施しました。その結果は、別紙のとおりです。			

○ 添付資料 あり

別紙 健康保険証の存続に関する意見及びマイナンバー保険証の導入に伴うトラブルに関するアンケート結果について

健康保険証の存続に関する意見及びマイナンバー保険証の導入に伴うトラブルに関するアンケート結果について

アンケート実施期間：令和5年12月28日～令和6年1月17日

回答数：50件

1 健康保険証の存続について

- | | |
|---|------|
| ① 陳情事項のとおり、国民が安心して医療機関を受診できるようになるまでは、健康保険証の廃止を延期し、存続すべき | 45 件 |
| ② 国が予定しているとおり、令和24年秋には健康保険証を廃止してよい | 4 件 |
| ③ その他 | 1 件 |

■自由記述意見（回答者ごとにまとめている。）

①を選択した回答者の意見

- (1) マイナンバーカードと健康保険証のひも付けができていないため、窓口職員が健康保険組合に確認電話することが度々ある。確実にひも付けが完了するまで、健康保険証は廃止しないでいただきたいと思う。
- (2) マイナンバーカードの扱いが困難な高齢者や障害のある方々等対応の負担が大きい。受付事務の負担が大きい。誤作動が多い。訪問診療時に保険登録できない、設備が整っていない。
- (3) カードリーダーのトラブル時に保険証が無いと診療できない。
- (4) コンセプトは素晴らしかったのだが、慌てて導入を進めすぎたせいで多くの方がついていけない現状をみてほしい。導入実験を国立センター病院や公立病院などで複数年行い、それから民間病院診療所へ広めても遅くはない。せっかくの良いシステムが台無しである。
- (5) 医療現場としては、しばらくの間は従来の健康保険証とマイナンバー保険証の二本立てで行くことを強く望む。みんなが不安な状態なのに、なぜそんなに急ぐのか、国民の意見を少しも解していない現状に納得がいかない。誰のための政策なのか。もっとみんなで議論をすべき重大な課題である。
- (6) i) 現行のような保険証が無ければ、救急もしくは状態の悪い患者さんの診

療手続が著しく困難である。例えば狭心症若しくは心筋梗塞を疑われる患者さんが来院し、一刻も早く診察、検査処置が必要なときにオンライン資格確認による時間のロスとは致命的になる。外傷の患者さんも同じである。ii) 高齢化、もしくは少し認知症を患う患者さんが、受付で暗証番号などを正確に入力できるだろうか。意識状態の悪い患者さんも同じである。iii) 高齢化した患者さんたちは、今でも院内でしばしば紛失騒ぎを起こす。マイナンバーカードを紛失した場合の対処は、非常に難しく、時間のロスにもなる。iv) 子供が修学旅行に行くときなど、従来は保護者は保険証のコピーを持参させているようだが、マイナンバーカードを持参させることは紛失などの危険性が高く、デメリットが大きいと思う。

- (7) もっと時間をかけなければならないと思う。
- (8) マイナンバーカードは100%できていないから存続したほうがよい。
- (9) 現場をみてほしい。無理なのは一目瞭然である。
- (10) 健康保険証が無ければ保険診療はできない。
- (11) 保険証のデジタル化は必須だが移行過程が稚拙で拙速にすぎる。時間をかけて検証しつつ移行する必要があると考える。
- (12) 存続を強く希望する。
- (13) 今般の改革は、急すぎて高齢者の理解が伴わず、現場での対応にも負担がかかりすぎる。制度決定者は、医療現場の現状に対する理解が乏しすぎると感じる。
- (14) マイナ保険証の使用がまだ少なく秋までに改善するとは思えない。特に認知症の高齢者はマイナンバーカードを申請することは難しい。保険証に代わる証明を出すとのことだが、それならば保険証の廃止を延期した方が簡単だしコストもかからない。
- (15) オンライン資格確認システムは不安定であり、トラブルが多発している。私は導入していない。そもそもマイナンバーカード取得は強制ではなく、任意のはずである。機能している保険証を廃止する必要はない。導入していないのでトラブルは無いが、システムが優れているための「トラブル無し」ではない。
- (16) 軽度認知機能の低下した高齢独居老人又は高齢夫婦ではマイナンバーカードでの対応は難しい。
- (17) マイナンバー一本化は高齢者には無理である。
- (18) 永久に存続すべき。
- (19) 一番の危惧はカードリーダーの単純な故障で全く保険診療ができなくなるおそれがある事である。紙の健康保険証とは全然違うレベルの危険性がある。つまり、紙ならば表示を読んで保険診療を行い、資格関係は後日確認で充分だが、マイナンバーカードのみ持参時は、記号番号などの基本情報が御本人

にも医療機関にも読み取れなくなってしまう。カードリーダーのような機器はいずれは寿命が来たり突然故障したり予期せぬ不具合が生じたりする可能性が少なくないが、このような脆弱なシステムに医療機関の窓口機能が依存せざるを得ない状況は空恐ろしいかぎりである。災害時や停電、通信障害など様々なイレギュラーに対しても著しく脆弱だと言わざるを得ない。昨今の社会状況を鑑みると、そうした機器の不具合が生じている状況で、医療機関がいわれのない責めを負うことも予想されるが、そのような事はまったく許容できないと考える。ぜひ紙の保険証を残すか、百歩譲ってマイナンバーカード以外に基本保険情報を参照できるような仕組みを用意し、被保険者に周知すべきである。

- (20) マイナ保険証は使いたい人が使用すればよい。便利な面もあると思う。しかし、全ての人に強制するのはいかがなものかと思う。移行するのであれば、時間をかけるべきである。今年廃止となれば必ず混乱し、良い結果をもたらさない。そもそも非現実的だ。見直すべきだと思う。
- (21) 国民皆保険で何時でも保険証一つで受診できる現状を壊すので存続すべきである。

②を選択した回答者の意見

- (1) いずれ移行するのであればどんどん進めて慣れていくべきである。
- (2) 健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体化（マイナ保険証）する方針が、決定されている。昨年4月から医療機関にオンライン資格確認導入が義務付けられた。マイナンバーカード交付率は、昨年4月時点で人口の65.10%（東京）にとどまる。しかし、年齢別の交付率は、DXの遅れが予想されるような地方や高齢者層の方が高く、あながち悪い傾向ではない。実際にカードリーダーを使う方は、まだ多くはないが、オンライン資格確認システムにより保険証期限が確認でき、こちらは有用である。先日、WebのJBpressで榎並利博氏がこの騒動を解説されていた。すでに国民にはマイナンバーが付与されており、それをを用いた身元確認方法としてマイナンバーカードが提供されている。デジタル空間で本人確認をするには電子的な鍵が必要であり、1枚のカードでリアル空間での身元確認が、かつ、ICチップによるデジタル空間での身元確認や当人認証も可能である。日本よりも番号制度が進んでいる諸外国では、逆にオンライン空間での当人認証機能はなく、ICカード化されている国はそれほど多くないという。マイナンバーというすでに施行されている番号制度とカード発行を混同している人もいるようだ。また、マイナポイントで釣るような交付促進、番号は秘密にしないと危険だという誤解、なによりも番号制度に対して適切な説明を欠いたことが、過剰な不信感を招いたように思える。私は、期限切れ保険証やなりすまし防止な

どにマイナ保険証は有用だとは考えている。しかし、番号と各種情報をひも付ける作業が手入力であったり、実際に扱う現場のシステムが非常に不親切である。また、電子証明は省き、リアル空間でのみ身元確認するカードもあればよかったかもしれない。「資格確認書」で保険者に余計な負担をかけるより、マイナンバーによる本人認証の仕組みを周知し、インフラ整備に政府がもっと責任をもつべきだと思う。

③を選択した回答者の意見

(1)健康保険証を無条件で存続すべきである。

2 マイナンバー保険証の導入に伴い生じたトラブルについて

① トラブルがある 27 件

② トラブルはない 23 件

■生じたトラブルの内容（回答者ごとにまとめている。）

- (1) マイナンバーカードと健康保険証のひも付けができていない。
- (2) マイナンバーカードを使う方が少ないので、件数自体は多くないが i) 保険の確認ができない。ii) 持参した保険証と異なる。iii) 毎回の登録の煩わしさに、患者様から不満を言われる。
- (3) 乳児医療証や、高齢者の自己負担割合が反映されていない。
- (4) 通信不良がある。
- (5) i) 顔認証がされない。ii) オンライン資格確認を行ったのに返戻がきた。確認すると受診日より1か月前に保険が変更になっていたのが反映されていなかったようである。iii) オンライン資格に登録された住所と医療券の住所が違う。確認すると医療券の住所があっていた。
- (6) 保険情報の誤りがある。
- (7) 利用者はとても少ない。機器の問題でカード情報が読み込めないトラブルがある。予備の機械を置いておきたいがそういうわけにはいかないらしい。
- (8) まだマイナ保険証を使う人が少ないので、正確には把握できないが、高齢者はスムーズに行えない事は事実である。
- (9) 通信機器自体ないしは通信状態の不調により本人確認ができない。
- (10) 過去の保険証が無効になっていた場合、こちらの作業状況を見逃してレセプトコンピューターのなかで自動的に訂正が行われ、その対処のために事務処理が滞った。

- (11) パソコンに情報がいかない。
- (12) 少しの時期のずれで新しい保険に反映されていないことがある。
- (13) 本人確認ができないことがある。
- (14) 同じ家族なのに名前がのっていない。
- (15) 割合負担の相違などがある。
- (16) マイナンバーカードを提示されても読みとれない。マイナカードを提示された方は一人である。健康保険証を持っていたのでそれで対応した。
- (17) 記載されている内容に漏れがあった。
- (18) 回線ないし機器のトラブルがあった。
- (19) 本人確認が取れない。
- (20) マイナ保険証への切替えを推奨しても、利便性や必要性を理解してもらえない。
- (21) 顔認証等でうまく連動しない。
- (22) うまく読み取れなかった。
- (23) マイナンバーカードの保険情報が他の患者さんにひも付いてしまった。マイナ保険証というよりオンライン資格確認のトラブルが多い。持っている保険証や高齢者受給者証とオンライン資格情報が一致しなかったり、確認結果が出なかったり、保険証が変わったばかりで反映されなかったり、「有効な資格情報がありません」となり毎回確認できないなどである。
- (24) たまに通信エラーが起きてしまいマイナンバーカードの読み込みができなくなる。
- (25) 無効な資格を受理してしまう。